

絵

筆

戦時下の前衛画家たち

東京・京都

福沢一郎 小川原脩 杉全直 吉井忠

古沢岩美 鬻光 麻生三郎

寺田政明 さ 松本竣介 ま 小野里利信 よ

難波田龍起 山口薫 小野里利信

長谷川三郎 北脇昇 小牧源太郎

吉加江清 小石原勉 え 原田潤 る

安田謙 今井憲一 松崎政雄

井上稔 田村一二三 水公平 小栗美二

杉山昌文 島津俊一

二〇二一年 三月二十七日【土】 五月二十三日【日】

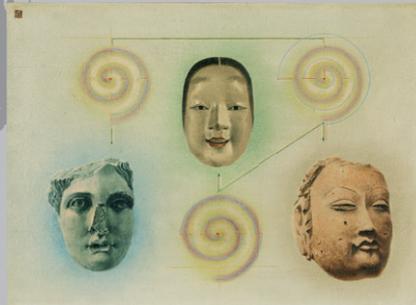
板橋区立美術館 板橋区立美術館 東京都板橋区赤塚五・三四・二七 電話：〇三・三九七九・三三二一 <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

● 1930年代後半、日本の前衛画壇は最盛期を迎える一方で戦争に伴い、表現の自由が奪われつつありました。また、美術界では日独伊防共協定の締結、太平洋戦争開戦などをきっかけにイタリアのルネサンス絵画や日本の埴輪や仏像、庭園などの前衛とは対照的なものの紹介が盛んになります。東京に暮らす美術文化協会の福沢一郎や鬘光、麻生三郎、吉井忠らに加え、同会に京都から参加した北脇昇、小牧源太郎、自由美術家協会の長谷川三郎、難波田龍起ら、そして新人画会の松本竣介をはじめとする画家たちも西洋古典絵画を思わせる技法で描かれた人物画や静物画、日本の埴輪や仏像、京都の龍安寺の石庭を描いた作品などを展覧会で発表しました。そのために戦時下の日本の前衛絵画は弾圧されたと見なされることもありました。しかし、前衛画家たちの作品を見ていくと、彼らが西洋や東洋・日本の伝統的な技法や題材に立ち戻ることによって自身の立ち位置を確認し、時代のリアルな感覚を伝えていることが分かります。

● 本展では、戦時下に前衛画家たちがそれぞれに現実を見つめ、描いた作品を当時の資料と共に展示いたします。これにより、時代の大きな転換期を迎えた時にも前衛画家たちは、刻々と変化する社会を見つめ、さまよいながらも絵筆を止めることはなかったことがみえてくるでしょう。

さまよえる絵筆

東京・京都 戦時下の前衛画家たち



- 1 福沢一郎 | 女
1937(昭和12)年 | 油彩・キャンバス | 162.1×112.1
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館
- 2 麻生三郎 | 男
1941(昭和16)年 | 油彩・キャンバス | 91.0×72.7
神奈川県立近代美術館
- 3 北脇昇 | 文化類型学図式
1940(昭和15)年 | 油彩・キャンバス | 53.5×73.5 |
東京国立近代美術館
- 4 難波田龍起 | 埴輪
インク、水彩、紙 | 21.0×29.7 | 板橋区立美術館
- 5 松本竣介 | 婦人像
1942(昭和17)年 | 油彩・板 | 35.0×27.6 |
公益財団法人 大川美術館
- 6 小牧源太郎 | 仏頭
1943(昭和18)年 | 油彩・キャンバス | 53.0×45.5 | ギャラリー宮脇

対談

- 4月17日(土) 14時より
杉全美帆子(作家・イラストレーター)×弘中智子(板橋区立美術館 学芸員)
「前衛画家たちの中に息づくルネサンス、
そして祖父・杉全直が教えてくれたこと」
 - 5月8日(土) 14時より
清水智世(京都府京都文化博物館 学芸員)×弘中智子
「転換期の京都の前衛画家たち」
- 詳細はHPまたはお電話にてお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、マスクを着用されていない方はご入館いただけません。原則としてグループでの観覧をご遠慮ください。館内では係員の指示に従ってください。また、記載内容について変更する場合がございます。予めご了承ください。

交通案内

- 徒歩
都営三田線「西高島平駅」下車約13分
- 路線バス(1時間に1~2本程度 所要時間約10分)
① 東武東上線「成増駅」北口2番のりば
「増17 区立美術館経由 高島平操車場」行きにて「区立美術館」下車
* 東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可(5番出口)
② 都営三田線「高島平駅」西口2番のりば
「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行きにて「区立美術館」下車
- タクシー
東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分

